

風土記の丘の花だより190

今、そしてこれから見られる植物(2023年6月17日)

今年の梅雨は、久しぶりに梅雨らしい梅雨ですね。よく降ります。うっとうしいですが、草木はたくさんの命の水をいただいて、生き生きとして、うれしそうに見えます。



ヒルガオの花が咲いています。でもこれは本当はコヒルガオです。「コ」がつくのです。ヒルガオは余り見かけません。去年、紀ノ川のせせらぎ公園の河川敷で見かけましたが、今年も咲いているのでしょうか。アサガオの葉の根元は左右に張り出していますが、コヒルガオはその張り出しの下にチョコンと出っ張りがあります。また、ヒルガオの葉の方が細長いようです。これは修復古墳の西の方で撮りましたが、今は草ぼうぼうでとても歩きにくいです。花が目立つので、探せばあちこちで見つかりますよ。



ツクサはこの季節によく似合う花です。青と黄色と白のコントラストがとてもきれいな、みんなが知っている野の花です。これほど鮮やかな青い花は他には見当たりません。実はこの花はややこしくて、調べれば調べるほど興味深いです。写真はめしべ(一番下の白くて細長いのが長く伸びているので、両性花といいます。雄花のめしべは短くて奥に引っ込んでいます。黄色いのはおしべです。おしべはさらにややこしいので、この辺で。



谷山家のヤマブキの右側の斜面などにコジキイチゴの黄色い実がたくさんなっています。(これをご覧になる頃に、落ちてしまっていたらごめんなさい)何号か前の花だよりで白い花を紹介しましたが、今回は実です。今年は特に多く実っているように思いますが、気のせいでしょうか。万葉植物園をはじめ、何故かあちこちで目につきます。特においしくはありませんが、毒もありませんので、話のネタに、勇気のある方は食してみてくださいはいかがですか。私はずっと以前(何十年になるでしょう・・・)に食べたことがあります。食感は覚えていません。



よく似た実が続きますが、これはヒメコウゾの実です。これは最近(といっても10年ほど前)食べましたが、ねっとりしていたのを覚えています。表面に毛が生えているので、舌触りがモヒトツだったことも覚えています。紙すきに用いるコウゾは、これと、同じクワ科のカジノキを掛け合わせて作ったものです。花だよりもそろそろ200号を迎えます。マンネリにならないようにがんばりますので、ご愛読のほどお願いします。

松下

